

校長メッセージ



伝統精神を 継承する中で、 何時の時代も 輝く生徒たち

愛知淑徳中学・高等学校
校長 飯野 博文

愛知淑徳中学・高等学校は、本年百十周年を迎えました。そして、平成18年から開始した中高完全二貫教育も、この春4回目の卒業生を送りだしました。進路先は、東大、京大、そして名古屋大学が20名を超えるものでした。また、愛知淑徳大学には43名が進学し、新しく二貫体制を実施した成果でもあります。一方、これまで高校が中心となっていたクラブ活動は、中学水泳部の全国大会総合3連覇のように、二貫体制の中で新しい中高クラブの活躍が始まりました。

「十年先、二十年先に間に合う人づくり」という建学の教育方針のもと、明治の時代にあっても英語理科を必須とし体育を奨励してきた進取の精神は、いつの時代にあっても変わらない基本方針です。

東新町時代の正14年には、県内の高等女学校では上級学校への進学者が最多数となり、池下時代には、多くの運動クラブが全国制覇を成し遂げています。

戦後は新しい法の下、愛知淑徳高等女学校を継承して、昭和22年に愛知淑徳中学校、昭和23年に愛知淑徳高等学校として新たに出発しました。戦後の混乱はありましたが、しだいに普通の学校生活を取り戻し、昭和23年には学校新聞「淑徳」も発行されました。

昭和34年に現在の星ヶ丘に移転したときも、中日新聞に東洋一の校舎と報道されたように、当時の施設としては、最高水準の視聴覚教室、図書館を設置し、恵まれた施設設備を利用した、図書館教育、視聴覚教育など独自の新しい教育を始めました。

また、現在、「強さとやさしさ」で表現される「淑徳魂」は、戦前、そして戦後70年を経ても受け継がれ、卒業生・在校生の精神的支柱となっています。

これからも生徒達には、この伝統精神を継承するとともに、「伝統は立ちとまらない」という姿勢も加え、さらなる高みを目指し輝き続けて欲しいと思います。